

●●病院

●● ●● 様

第42回大分県病院学会 演題番号通知

ご登録いただいた演題はポスター発表に決定いたしました。

演題番号：A4●

- * 演題番号先頭のアルファベットは発表会場、2番目の数字は群、3・4番目の数字は発表順を示します。
- * 演題番号通知書類一式の到着確認も兼ねておりますので、内容をご確認後、メール本文下部の連絡票に必要事項をご記入いただき7月15日（月）までにご返信ください。

1. 発表までの準備について

(1) 登録内容の確認

添付ファイルの最終頁のプログラム（案）にて発表会場と発表順番、記載内容をご確認ください。記載ミスや変更等がありましたら、連絡票の「その他連絡事項」欄にご記入ください。

(2) 発表準備

発表原稿は7分をご用意ください。ポスターは次頁の規定（→3.）に沿って作成してください。

(3) 事前参加登録の申込

発表者も参加登録が必要です。 会員病院を通じて事前参加登録をしてください。事前参加登録をお申込みいただかないと、抄録は届きません。

病院附属施設（クリニック等）に所属の方は、貴院のご担当様へご確認をお願いいたします。

(4) 参加証・抄録集受取

学会開催1か月前に会員病院様へまとめて抄録集を送ります。抄録集を受け取られましたら、ご自分の掲載事項や待機時間帯などの確認をお願いします。また、今後の予定は抄録集の「学会参加の皆様へ」の頁でもご確認ください。

(5) その他

LINE登録のご協力をお願いします。事務局からの連絡に使用します。6月18日（火）までに右のQRコードを読み込み、**トーク画面に演題番号を入力され送信ください。**学会終了後には学会アンケートをお送りしますので、その後、事務局のトークルームを削除してください。何卒ご協力のほどお願いいたします。



事務局 LINE

2. ポスター発表当日について

(1) 受付 … 8:00～11:00

受付時間内にエントランスの「発表者受付」にて自分の演題番号をお申し出ください。名簿の記載事項の確認をし、「記章」を受け取ってください。受付時に掲示されたポスターの撮影許可の可否をお尋ねしますので、お知らせください。

受付時間に間に合わない場合は、11時までに大会本部までご連絡ください。その際は演題番号とお名前をお知らせください。

◎大会本部 TEL 097-540-5526 若しくは 080-6448-9405 (SMSも可)、LINE

(2) ポスター掲示 … 9:00～12:00

時間内にコンベンションホール会場内のご自分の演題番号が貼付された該当パネルにポスターを掲示してください。セロテープ若しくは押しピンは各自でご用意ください。ポスターの掲示内容について写真撮影を希望する参加者のために、演題番号下の「写真撮影 可・否」の可否のどちらかに○印をしてください。なお、演題名は各自でご用意ください。

(3) オリエンテーション … 12:50～13:00

会場責任者からの説明、および座長との打合せがありますので、各群の先頭パネルに集合してください。次頁の「発表者 当日の注意事項」に沿ってオリエンテーションを進めますので、**当日は次頁をご持参ください。**終了後、開会式を行いますのでご参加ください。

(4) 発表時間・発表形式

自座開始 10 分前には自パネル前に待機してください。共同研究者の方の同席は妨げません。

各セッションは 10 分間（**発表時間 7 分、質疑 3 分**）の予定ですが、質疑の状況により発表開始時間は前後します。余裕を持つての待機をお願いします。

発表には可動式のマイク・スピーカーを使います。マイクは手持ちとなります。

注) 当日の発表者が変更になった場合は、ご自分の発表時間内に変更の旨をご報告の上ご発表下さい。

(5) ポスター撤去 … 16:00～16:10

発表後閲覧される方のためにできるだけ最後まで掲示をお願いいたします。掲示のためにポスター本部より借用した押しピンは返却し、セロテープ等ゴミはお持ち帰りください。ご自分で撤去されない場合は、16 時 10 分以降に業者が撤去作業を行います。

(6) 記章の返却

受付時にお渡しした「記章」は、お帰りの際にエントランスホール内の総合受付までご返却願います。

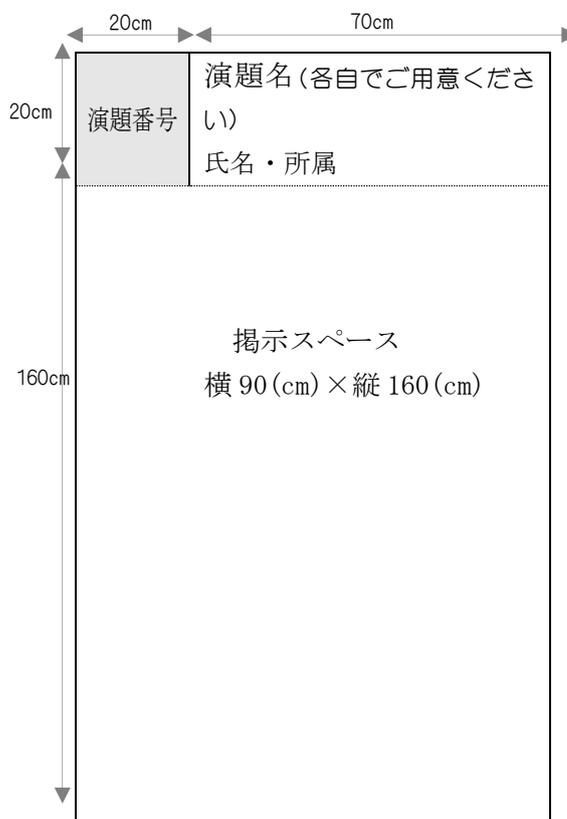
3. ポスターの掲示等について

- 掲示パネルサイズ：横 90 cm×縦 180 cm。
- 演題番号：実行委員会にて準備。
- 演題名・発表者氏名・所属掲示：各自で準備し、上方 70 cm×20 cm以内に掲示を。
- 掲示スペース：横 90 cm×縦 160 cm。

見やすい掲示のためにも、2 m の距離からも読める大きさに文字サイズは演題 4 cm 以上、本文 2 cm 以上。図表等は 20 cm 角以上の大きさにする。また、テーマカラーを決めて同一色を使用し、統一感を出す。タイトルや見出しは大きめにし、文字は少なく図やイラストを多く取り入れる。以上のことを参考に作成。

以上

《お問合せ先》 一般社団法人大分県病院協会 事務局
〒870-0100 大分市大字駄原 2892-1
大分県医師会館 5 F
TEL:097-540-5526 ・ FAX:097-540-5597
E-MAIL: oha2@oitahospitals.jp (学会)



当日の確認事項・発表の流れ（A会場：コンベンションホール）

《確認事項》

- ① 演題番号下部の「写真撮影 可・否」の可否のどちらかに○印をしてください。
- ② 12時50分よりオリエンテーション（事前打ち合わせ）参加のため、会場内の各群の先頭パネルに集合してください。
- ③ 13時05分から開催される開会式へご参加ください。
- ④ 『記章』は退会時に総合案内までご返却ください。
- ⑤ ポスターの撤去は16時00分からです。

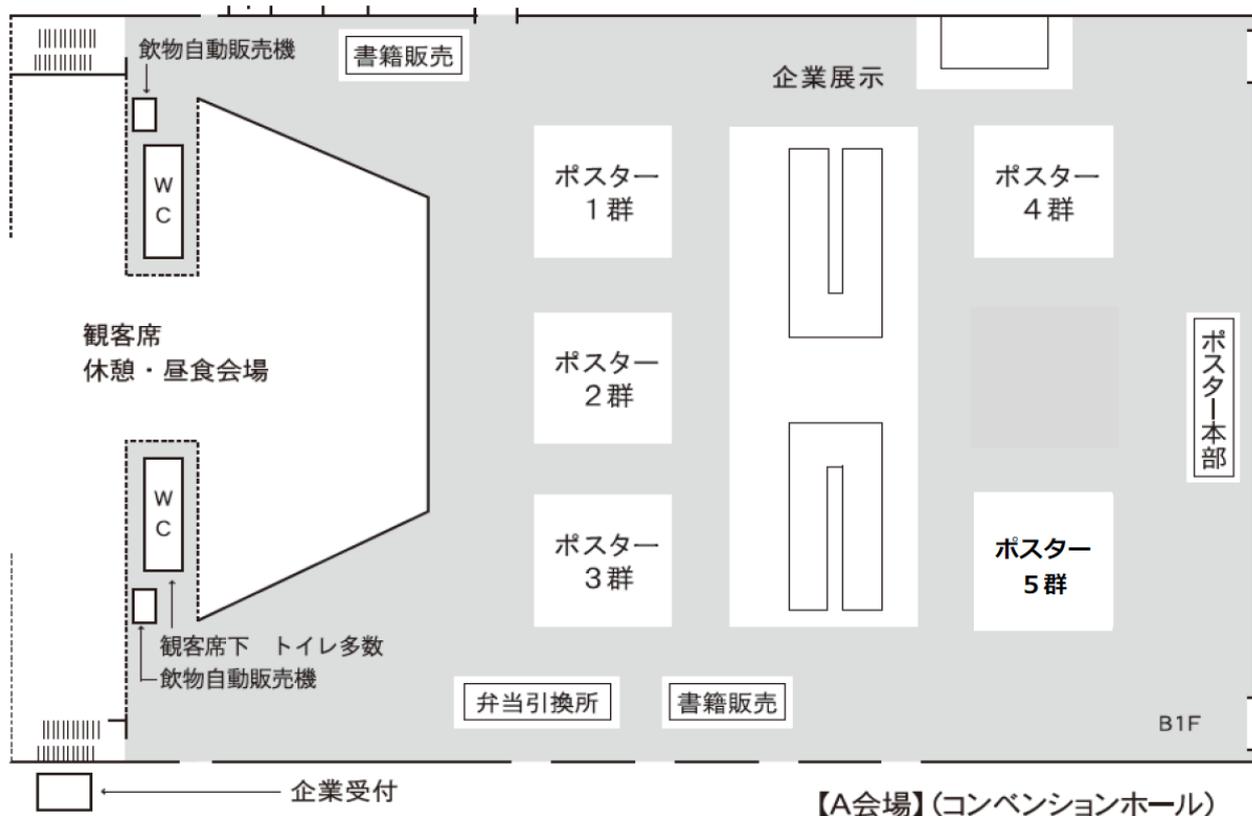


①見本

《発表の流れ》

- ① 自座開始10分前には自パネル前に待機。
- ② 座長が「演題」と発表者の「所属」、「氏名」を紹介するので、座長の開始の指示を待つ。
- ③ 発表開始。質疑応答を含めて10分。
発表者の交代や抄録内容に訂正がある場合は、自分の持ち時間内に行う。
- ④ 質疑応答が終わった後も、参加者との質疑応答・討論のため、ご自分の発表時間外も出来るだけポスターパネル脇に待機願います。

【ポスター会場レイアウト図】



一般演題目次

【ポスターセッション4群 A会場：コンベンションホール】

分科会開会式 13時05分

演題 番号	登録 番号	【カテゴリ】 項目	演題 副演題	会員病院名 発表者 (職種)
1座 13:10～14:10				
A401	137	【研究・調査】 その他	骨塩定量検査装置のワークステーション（解析用PC）追加による検査時間の改善	野口病院 新谷 知彦（診療放射線技師）
A402	129	【研究・調査】 検査	当院における一般撮影の条件の再検討 ～FPDとIPとの比較～	川島整形外科病院 山本 慎二（診療放射線技師）
A403	121	【研究・調査】 検査	睡眠時無呼吸症候群合併症の頻度 ～CPAP導入によるAHIの変化～	サンライズ酒井病院 三寶 多恵（臨床検査技師）
A404	42	【研究・調査】 看護研究	手指衛生の意識向上・遵守率向上に向けた取り組み	高田中央病院 秋田 巧（看護師）
A405	35	【研究・調査】 看護研究	透析患者の骨粗鬆症スクリーニングと治療介入を試みて	玄々堂高田病院 木村美由紀（看護師）
A406	75	【研究・調査】 看護研究	認知症患者の真意を引き出す意思決定支援 ～2名の大腿骨頸部骨折術後患者の面接を経験して～	大分三愛メディカルセンター 吉田 奈央（看護師）
2座 14:10～15:10				
A407	138	【研究・調査】 看護研究	脊椎腹臥位手術の体圧分散を考慮した除圧具の検討	明野中央病院 加藤 啓（看護師）
A408	44	【研究・調査】 看護研究	術前訪問による患者の不安軽減への意義と成果 ～患者満足度調査を実施して～	高田中央病院 北永 博子（看護師）
A409	98	【研究・調査】 統計	手術を受ける患者満足度調査 ～手術決定から退院まで～	若宮病院 小山 直実（看護師）
A410	86	【研究・調査】 その他	入院の業務改善が病棟スタッフにもたらした変化	和田病院 阿部 有希（看護師）
A411	101	【研究・調査】 看護研究	当院形成外科の創部処置に対する患者指導方法の検討	明野中央病院 小嶋美智子（看護師）
A412	95	【研究・調査】 看護研究	パーキンソン病進行に伴うジスキネジア発現患者の看護	別府中央病院 坂之下紗里奈（看護師）
3座 15:10～16:00				
A413	131	【研究・調査】 看護研究	がん患者の不安に対するアプローチ	コスモス病院 神田 彩奈（看護師）
A414	77	【治療・リハビリテーション】 緩和ケア	末期がん患者の『家に帰りたい』気持ちに寄り添う ～チームアプローチで自宅復帰実現～	高田病院 佐藤 圭太（理学療法士）
A415	63	【治療・リハビリテーション】 緩和ケア	終末期患者との関わりを通じ感じたジレンマからの考察	コスモス病院 吉弘 理砂（看護師）
A416	83	【治療・リハビリテーション】 皮膚・口腔ケア	口腔ケアに対する質向上に向けての取り組み ～口腔ケアマニュアルを作成して～	大分循環器病院 佐伯 仁美（看護師）
A417	70	【治療・リハビリテーション】 皮膚・口腔ケア	当院の療養病棟における褥瘡対策の現状と課題 ～業務改善とチーム医療の有用性～	児玉病院 藤井 隼人（看護師）